



東京の会通信

No.290

2020年5月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

骨髄バンクを支援する東京の会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当面6月いっぱいまで、人との接触を伴う活動や会議等を中止します。大変心苦しい選択ですが、ご理解いただきますようお願い致します。

この原稿を書いているのは、4月14日です。新型コロナウイルスが猛威を振るい、日ごとに感染者が激増しています。白血病など血液疾患の患者さん、ボランティアの皆さんは不安な日々を過ごされているとお察しします。この会報が皆様に届くころには、収束に向かっていることを、切に願いながら書いています。

人命を救うため、日夜たがわぬご奮闘を続ける感染症専門家、医師、看護師をはじめとする医療従事者、行政機関の皆さまに、東京の会を代表して心から敬意を表します。

日本骨髄バンクは、緊急事態宣言の対象地域に居住するドナーに対する最終同意面談等を延期し、新規コーディネートを停止しています。ドナー登録会も開催できなくなり、東京の会が献血ルームで行っている活動も中止を余儀なくされています。骨髄移植が必要な患者さんのために、1日でも早くドナーコーディネーターやボランティア活動が再開できる日が来ることを願っています。

「骨髄バンクを支援する東京の会」は新型コロナウイルスとのギリギリの状況で闘い続けるすべての皆さまに、心からのエールを送ります。「負けないぞ」。

骨髄バンクを支援する東京の会代表 三瓶 和義
(以下、50音順)

石崎 友子 (東京の会会員)

毎日のように不安なニュースが飛び交い、その真ただ中でリスクを抱えながら病院で働いているあらゆる職種の皆さん、本当にありがとうございます。みなさんのご家族も一緒に無事でこの危機を乗り越えられるよう毎日お祈りしています。

医療崩壊が心配される中、病院ですでに闘病中の患者さんたちも大きな不安を感じていると思います。長引く自粛生活でみんな辛いですが、今は自分たちの感染を防ぐ事が、医療崩壊を防ぎ患者さん一人一人を守る事。また元のようにみんな笑顔で集まる日を思い、一緒に頑張りましょう。

梅田 正造 (千葉骨髄バンク推進連絡会)

コロナで献血、ドナー登録が減ったため千葉の会では献血に協力しながら献血併行登録会を多数開催してきました。しかし4月7日に「緊急事態宣言」が出て登録会ができなくなりました。患者さん支援のため私は今月1～2回のペースで成分献血をしています。これを継続します。全ての病と闘う患者さん、その救命に当たる医療関係者の皆様に心からエールを送ります。光は必ず見えます。頑張ってください！！

及川 耕造 (東京の会会員)

感染症と聞くだけで、白血病と戦っていた時の息子と、病院の先生、看護師さんの姿が目には浮かびます。今、自らも感染のリスクを抱えながら患者さんに向き合っておられる現場の方々、さぞお疲れでしょう。どうぞ無事でありますよう。心からの感謝を込めて祈ります。

大谷 貴子 (古い古い移植患者)
血液内科の先生方、本当にありがとうございます。状態の良い患者さんに一人、一人、電話をかけ、「今、受診する必要がなさそうなので、ステイホーム。」もしくは、「薬の処方箋は送るから、近所で受け取ってね」と指示をしてくださっていると。入院されている患者さんの治療、そして、感染症病棟から医師不足で応援を頼まれておられる状況かもしれません。それなのに、たくさんの個々の患者さんに心配りをいただき、本当に感謝です。どうか、ご自身もご自愛ください。ありがとうございます。

小澤 隆人 (東京の会会員)

患者さん、ただでさえ治療の不安が尽きない中、このような状況になり不安でいっぱいのことと思います

患者さん、
医療スタッフの皆さん、
保健所など
行政担当者の皆さん
**私たちは
応援しています！**

す。でも、あなたを待っている人が必ずいます。応援してくれている人がたくさんいます。今は思う存分みんなに甘えて、頼ってください。あなたの元気な姿を見せてあげるのが何よりの恩返しになります。私も移植経験者の一人として、応援しています！明るい未来を信じて、一緒に頑張らしましょう！！

そして医療関係者の皆様、現場の最前線で闘っている皆さんの苦労は計り知れません。今の日本を守っているのは紛れもなく皆さんです。皆さんのおかげで救われた命があります。皆さんの笑顔や一言で安心した患者さんもたくさんいると思います。本当に感謝しかありません。このメッセージが、少しでも皆さんの力になれば幸いです。

小澤 洋介(チェリスト)、三戸 素子(ヴァイオリニスト)

お正月の頃は夢にも思わなかったこの感染症。小説かパニック映画の中にいるような気がします。ヒーローとヒロインは医療従事者の方々。この先シナリオの行方は未知ですが、頑張ってくださいように。そして私たちは出来るだけ協力できますように。

いよいよ終息のあかつきに、私たちは音楽で喜びとエネルギーを届ける役を演じたいと思っています。クライマックスはまたみんなと元気で笑顔で再会するシーン。一人も欠けることなく、早くその日が現実となるよう祈っています。



骨髄バンクチャリティコンサートにて

大塚 礼子(東京の会会員)

4月12日のイースターには福岡へ行き、76歳になる私たち夫婦には最後となる、長男の墓前式に参加する予定でしたが、緊急事態宣言が出て中止となってしまい残念です。福岡への旅行費は東京の会に寄付することにしました。

今年は東京の会設立30周年の記念すべき年ですが、厳しい経済状況で寄付金が減少することが心配です。白血病と闘う患者さんと共に、医療スタッフやドナーさん、ボランティアなどたくさんの人たちと、支えあい守られてきた東京の会の活動を、希望を持って続けていくために、皆様のご協力を心からお願い致します。

亀田 玲奈(東京の会会員)

診療にあたっている医療スタッフの皆さまお疲れ様です。私も病院勤務しており、これまで以上に感染対策を行なっているところです。緊急事態宣言が出されましたが、これからも月2回の献血を続けていきます。辛い時期ですが一緒に乗り越えていきましょう！

櫻井 正和(東京の会会員)

皆で団結して、コロナに勝ちましょう！

周 燕(東京の会会員)

現在骨髄移植を必要とする患者さんが直面している困難は、私の娘Adelaが経験したことに通じるものがあると感じます。7年前の発病以来、治療、再発、移植等の一連の挑戦が続きました。お医者さんの懸命なサポートのおかげもあり、娘は病気を克服し、今年東京大学に入学します。

非常に難しい状況が続いていますが、前を向く勇気を失ってはいけません。あなたのご家族、医師や皆さんと協力してこの難局を乗り越えていけるはずですよ。どうか、気を強く持って、一緒に頑張ってください。この状況がいつ収束するのかは分かりませんが、来年も春になれば美しい桜が咲き誇るでしょう。

竹崎 恵子(東京の会会員)

私は今、在宅の患者様を守り、看護師、リハビリスタッフ、事務職など30人、その家族を守り、闘っています！すぐそばまでコロナが近づいています。ご主人が医師で、発熱外来担当になったとか、外科医師が手術が出来なくなって子育てを手伝っているとか。中には妊娠中でリスクが高いにもかかわらず、現場を訪問している看護師もいます。距離を置き、短時間を原則として。職場でコロナ感染を起こすことは許されないので。今のところ大丈夫です。その中で、ドナー登録活動は出来ないけど、今日は献血に行きます。それなら出来ます。献血ルームもベッドを減らして感染予防をしているようです。輸血が治療のベースの患者様も多いから、私の健康な熱い血液を贈りたいと思います。

田中 重勝(岐阜骨髄献血希望者を募る会)

「明日は私が白血病と診断されるかも」との思いで活動することが、患者さんへの支援にもつながると思い骨髄バンクの登録推進に取り組んできました。同じ思いで新型コロナウイルスへの対応をしていますが、献血併行登録会での活動が出来なくなり、啓発とドナー確保が心配です。こうした時こそ、骨髄バンク及び患者さん支援の意義を自らに問い直し、次の活動につなげる良い機会だと思っています。一緒に頑張ってください。

鳥羽 雅行(東京の会会員)

わたくしは 基礎疾患があるため、まだ当分はボランティア参加が出来ず 重苦しい日々を迎えています。その中SNSを介し大勢の方と個々に接する機会に恵まれ大変嬉しく思います。毎日訪れるコンビニのスタッフさんは決して笑顔を絶やしません。みなさんが多国籍なので旨く返事もできませんが、帽子・サングラス・マスクの間から「1000倍の微笑み返し」に努めています。

ます。長期入院で自分が学んだことは「笑顔」でした。

中谷 光子（東京の会会員）

骨髄移植を待っている皆様、移植を済ませて療養中の皆様、そして化学療法だけで療養中の皆様、どんな気持ちで、毎日をお過ごしでしょうか。今年になって突然起きたコロナウイルス騒ぎに驚かれ、ご不安をお持ちではないかと心配しています。私たちは、この騒ぎになす術もなく、立ちすくんでいます。私たちに出来ることは、ただただ、風邪でもなんでも、病気になること、怪我をしないこと、病院に担ぎ込まれないこと、に尽きると思います。皆様の病気療養に、ほんの少しでも、邪魔にならないように務める事が、私たちのやるべき事だと思います。

どうか、皆さまのご体調が昨日よりは今日、今日よりは明日、とよくなってこられる事を心よりお祈り申し上げます。どうぞ、頑張ってください。

新田 恭平（東京の会会員）

新型コロナウイルスが猛威をふるっていますね。高齢者が感染すると重症化しやすいといわれていますが若年者も油断できません。お互いに密閉、密着、密接の場を作らず、感染を避けて危機を乗り越えましょう。

新田 雅子（東京の会会員）

連日コロナウイルスのニュースを聞いていると、感染者の周りで働いておられるお医者さん、看護師さんが一番大変だなーと思います。私たちに何が出来るかを考えると、やはり一人ひとりの行動が大事ですね。何時までかわかりませんが、頑張りましょう！

福田 梢（埼玉骨髄バンク推進連絡会）

全国の骨髄バンクに関わる皆さん、今、献血バスの献血、登録会の中止でとても大変な状況です。血液疾患の患者さんにとっては命に関わる状況にもなっています。しかし、皆さんは患者さんのために必死に献血の呼び掛けや登録会、できる限り動いています。止まってないです。動き続けています。大変ですが動き続けてください！！その動きが患者さんのエールになっています！！頑張ってください！！

福永 達子（東京の会会員）

大変な世の中になりました。こんなことが起こるなんてまだ信じられないくらいです。でもどんな世の中



になろうと、闘病中の患者さんには輸血や骨髄ドナーが必要で、私たちはそれを忘れてはしません。今はウィルスの感染拡

大を抑えるために活動できませんが、また絶対に活動再開しますので待っていて下さい！そして勇敢な医療スタッフの皆さんに敬意を表します。一日も早く感染拡大が収まるように、私たちも我慢の時です。頑張りましょう！

二見 茂男（東京の会会員）

血液難病の治療にあたっている医師・看護師の皆さん、骨髄バンク関係者の皆さん、ありがとうございます。いろいろ厳しい状況があると思いますが、患者救命のため、引き続きよろしくお願いします。患者の皆さんも、感染予防に万全を期しながら、主治医の指示に従って治療を続けてください。私たちボランティアも活動ができなくなっていますが、心は皆さんと共にあります。今何が出来るのか、活動が再開出来るようになったら何をするのかを考えています。明けられない夜はありません。頑張りましょう。



松下 倫子（東京の会会員）

今、外出自粛が要請されて、登録会が出来なくなっています。ドナーを待っている患者さんには不安な日々だと思います。私達説明員も悔しい思いで一杯です。登録会が再開出来るようになったら、中止にした分も取り返せるように頑張ります！

光江 健太郎（東京の会会員）

全国の医師、看護師、医療従事者の皆さん日々奮闘頂きありがとうございます。そして、全国のがんと闘っている患者さん、移植を待っている患者さん本当に大変な毎日だと思います。緊急事態宣言が発令され我々のボランティア活動も自粛せざるを得ません。何もできない無力さを痛感しております。今できる事は何か、何をしなければならないか日々考えています。

どんな困難な状況も必ず道は開ける事を信じて、共にこの状況を乗り越えましょう。そして、活動できる時期がきたら、これまで以上に共に力を合わせて待っている患者さんのために行動して行きましょう。皆さん、笑顔で！

若林 清治（ドナー経験者）

この困難な状況下であらゆる手段を投じ最善の治療を続けている医療従事者の皆様の力。そして目的を明確に持ち希望に満ちた患者の皆様の力。それらの力に勝てるものはありません。その力はコロナさえも打ち砕いて行くに違いありません。どんな壁だろうと必ず乗り越えられると信じております。応援だけでは非力ですがその力に加えていただければ幸甚です。

若木 換（東京の会会員）

敬愛するプロサッカー選手「キングカズ」こと三浦知良選手のことで元気付けられました！がんばろう！『戦争や災害で苦しいとき、隣の人へ手を差し伸べ助け合ってきた。暴動ではなく協調があった。日本にはそんな例がたくさんある。世界でも有数の生真面目さ、規律の高さ。それをサッカーの代表でも日常のピッチでもみてきた。僕らは自分たちの力をもう少し信じていい。日本人はこういうとき、「やれるんだ」と。「都

市封鎖をしなくたって、被害を小さく食い止められた。やはり日本人は素晴らしい」。そう記憶されるように。力を発揮するなら今、そうとらえて僕はできることをする。ロックダウンでなく「セルフ・ロックダウン」でいくよ。』



箱根駅伝応援（田町にて）

新型コロナウイルス禍の患者事情 大谷 貴子

4月10日、とても親しい友人が白血病と診断されました。日本のみならず世界中が新型コロナウイルス禍で右往左往している真最中ですが、白血病になった友人も待たなすです。

幸いにも様々な治療方針が選択できる血液内科に入院をすることができましたが、お見舞いも厳禁のこの時期。気持ちは、入院先に飛んでいって、私の闘病体験のおさらい（もう古い体験ですからね・・・）や最近の患者さんの状況、そして、最新の医療状況など、ゆっくり説明したいところですが、それすら許されない日々です。本当にもどかしく思いました。

しかし、新型コロナウイルス禍で、緊急事態宣言が発令された埼玉県から、発令されていない他県に入院した友人は、「2週間の隔離」という名のもと、有料個室に無料で入室することになりました。性格的にも決して寂しがり屋ではなく、一人で人生を楽しめる人です。ですので、本人は「格安なら個室がいいワ」と言っていましたので、個室の入室にとっても喜んでいました。

私も「ラッキー！」と思いました。個室なら、携帯で話すことも自由ですし、少々、大きな声で話しても大丈夫ですから。

早速、スマートフォンのフェイスタイムを使って、顔を見ながらのおしゃべりタイムです。当たり前ですが、今どきのスマートフォンでの会話に時差が生まれるわけでもなし、そして、一対一ではなく、こちらは共通の友人と呼んで3人での会話を楽しむこともできました。またライン会話となると数人でのおしゃべりも可能です。これはさらに楽しそう。

すでに抗がん剤の治療が始まった友人ですが、まもなく、新型コロナウイルスの影響でなくても白血球低下のために、家族以外の面会を禁じられます。でも、スマートフォンのフェイスタイムやライン会話なら、全く問題なしです。友人の調子さえ良ければ、共通の友人といつまでもおしゃべりを楽しめます。ただでさえ辛い治療が始まるのに、その上の閉塞感は本当に辛いものです。それをほんのひとときでも、友人とのおしゃべりで気がまぎれるなら、と私もこれからの

会話が楽しみになりました。そして、きっとこれから不安なことも多々、出てくるでしょうから、そんなときは、多くの先輩患者さんをこれまたフェイスタイムやライン会話で顔を見ながら話すことができたらどれほど、心強いことでしょう。



そうか、こんな時代になったのだ、と改めてわが身を振り返りました。私が発病した1986年は、携帯電話もなければ、たとえ有料個室でも固定電話さえありませんでした。入院したら最後、社会から隔離されてしまっていました。しかも、抗がん剤が始まると公衆電話にも行けません。こんな私が良く耐えていたものだと思えます。

そして、さらに革命的な患者会も5月に開催されます!!

パソコンやスマートフォンさえあれば開催できるZoom患者会です。ちなみにZoomを知らなかった私です。早速、若い患者さんから手取り足取りZoomについてのレクチャーとアプリの取得方法を教えてもらいました。

今回の新型コロナウイルス禍で、テレワークが主となった今、Zoom会議も盛んだということを知り、説明を受ければ受けるほど、「なるほど!!」と思いました。

核となる患者さんが福岡におられるのです。相手はどこにいようと、テレビ会議のように患者会が企画できるというのです。もっとも、新型コロナウイルス禍でなくても、福岡までとなると、なかなか参加できない距離だったので、今回は喜んで参加することにしました。20人ぐらいが参加されるとのこと。まずは、女子限定の患者会。家にいながらにして、福岡在住の患者さんとの交流。あれ？家にもお化粧をして、きちんと服を着て……？？？家人には笑われそうですね。

以上、時代の流れとともに、どんな状況下でも、闘病や人生を楽しむことができるというお話でした。

※Zoom…パソコンやスマートフォンを使って、セミナーやミーティングをオンラインで開催するために開発されたアプリ

献血ルームの活動は厳しい状況に

2019年度の東京の会の献血ルームにおけるドナー登録推進活動は、前年度までと比べて厳しいものになりました。常時活動に参加出来るメンバーがとうとう3～4名になってしまい、なんとか毎回2～3名の説明員をそろえて活動を続けている状態です。

「仕事の休みが取れたら」あるいは「体調が良ければ」と言ってたまに参加してくれるメンバーが、人数が足りない日に助けてくれなかったら、予定した活動を維持してやって行くことは出来なかったと振り返ります。

かつては1回に7～8名が参加して20名ものドナー登録者を獲得していた東京の会の献血ルーム活動ですが、2019年度は参加人数が減り、活動時間を有楽町献血ルームでは午後の4時間だけに短くしたこともあり、1回の活動での登録者は半減しました。

その上に大きな打撃となったのは新型コロナウイルスの感染拡大です。2月下旬からはイベントの自粛、3月下旬には感染爆発の重大局面と言われ、2～3月に予定していた3回の献血ルームでの活動を中止せざるを得ませんでした。ドナーを待って闘病中の患者さんを思うと、こんな感染が広まってドナー登録を呼びかける機会を失ったことが悔しくてなりません。

2019年度は有楽町と新宿東口駅前の献血ルーム合わせて15回の登録会を行い、130名のドナー登録がありました。2020年度も4～6月の活動を休止し、新型コロナウイルスの流行状況を見ながら、落ち着いてまた活動が出来るようになったら、中止した分も合わせてドナー登録推進活動に力を入れて行きたいと考えています。(松下倫子)

三鷹市が予防接種(再接種)費用の助成を開始

三鷹市の市報「広報みたか・No.1664」(2020.4.5号)に、「骨髄移植手術などにより免疫が喪失した方に予防接種(再接種)費用を助成します」と掲載されました。

同市報によりますと、「骨髄移植手術などの医療行為により、免疫が喪失(減少)し、接種済みワクチンの効果が期待できないと医師に診断された方に、再接種にかかった費用を助成します」というものです。方法は償還払いです。対象は、再接種日現在20歳未満の市民です。ワクチンごとに個別の年齢制限はあるとのことです。

対象となる予防接種については「骨髄移植手術など

の医療行為前に定期予防接種として接種したワクチンで、医療行為後の令和2年4月1日以降に国内で再接種したもの」です。早速、都疾病対策課に全都の実施状況を問い合わせたところ、今年度から「包括補助事業※」の一つとして導入された制度であることがわかりました。都内の実施状況が明らかになるのは少し先のようなようです。

東京の会としては、骨髄移植患者さんの健康とQOL維持のための具体的な支援として歓迎いたします。早く、全都に広がると思います。(三瓶和義)
※医療保健政策区市町村包括補助事業のこと

東京ドナー登録会予定(5月・6月)

5月、6月は登録会の予定はありません。

東京の会 「5月、6月定例会」 について

5月、6月の定例会は中止とさせていただきます。
7月以降の開催についても、中止となる可能性があります。
最新情報はホームページ等で確認下さい。

※7月定例会予定・7月18日(土)午後5時30分より
会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館)3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

7月会報発送

「おりおり」のお知らせ

7月のおりおりについては開催できるかどうか、現在のところ未定です。ホームページ等で最新情報をご確認いただくようお願い致します。
会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

7月4日(土)13時00分より
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
※9月「おりおり」予定・9月5日(土)13時00分より

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2020.2.16～4.15)

佐野啓子さん 2,000円/株マルゼン 2,643円/匿名 5,000円/鳥羽幸子さん 10,000円

大塚礼子さん 300,000円/鳥羽 雅行さん 5,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼散歩がてら書店に立ち寄ったとき、「サル化する世界」という興味深い書名が目に入りました。帯紙には「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」と書かれていました。著者の先生の著書を拝見するのは初めてでしたが、豊かな知見と鋭い切り口での論評が掲載されています。「サル化する世界」は本書の冒頭に載せられており、ポピュリズムと民主主義との関係について考究されています。

▼サル化とは「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」という考え方をすることを昔の中国の故事「朝三暮四」のサルになぞらえ、現代の世界の人々の生き方を評して表現されたのです。昔、サルを飼い、餌のトチの実を朝四つ、夕方四つ与えていた飼い主が手元不如意になり節約しようと、サルにトチを朝三つ、夕方四つにすると提案したところサルが激怒したため、朝四つ、夕方三つではどうかと再提案したらサルが大喜びで受け入れたのです。「朝三暮四」は実質的には同じ結果になることを相手に有利になると思わせる意味に使われます。

▼ポピュリズムと民主主義との関係はどのような位置づけなのでしょう。人類は長い歴史を経て民主主義のシステムを作り上げてきました。様々な人々の意見を聴き、それを政治に反映させていくシステムです。弊害が見つければ人々の議論によって修正をしていく制度です。スイスのように国民の直接投票により修正する直接民主主義と、国民が選んだ議員によって構成される議会の手続きによる間接民主主義の二通りがあ

ります。

▼ポピュリズムはその時代の大量社会の中にある不満や希望を重視し、取り上げていく思想や政治体制を意味します。十分に論議しないで一時的な感情やムードによって政治的態度を決めてしまう大量の支持を得て、政治的基盤を作る手法をいう場合もあります。この傾向が強くなりすぎるとポピュリズムは大量迎合主義あるいは反エリート主義の意味で使われる場合があり、負の印象が生じます。

▼民主主義の国は国民の能力や理性のレベルで国家の方向性が左右されることは否定できません。国の指導者が政策について十分に説明、論議をせず、国民の感情や気分によって支持を得て誤った政策を決めてしまえば、正当な民主的手続きで誤った政策を実現することができるのです。民主主義の国の国民のつもりでいたのに、いつの間にか独裁主義国家の国民になり、自由にモノが言えなくなっていたなんてことが起こりうるのです。

▼そのような事態が生じないようにするためにはどうしたらよいか？その答えが「私たちがサル化しない」ことなのです。サル化は狡猾な政治的指導者によって、私たち国民が感情や気持ちをくすぐられ、いい気分になって、「今さえよければすべてよし」で「先のことは先になって考えればよし」と誤魔化されることが原因です。怪しいなと感じた指導者については、納得がいくまで十分な説明を求め、正しい手続きを経て政策を決めることが必要です。

▼私たち一般国民は政策決定の手続きに直接参加することはできないと思っている方が多いと思います。新聞の投書欄への投書とか、自治体議会・国会への陳情、関係事項の所轄官公庁への陳情などいろいろな方法があります。必要な時には諦めず粘り強く取り組みましょう。(k)

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和2年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	529,965	66,833	58,954
2-3月登録分	6,092	878	446
2-3月抹消数	4,247	529	-
実質登録増	1,845	349	-

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	827,854人
ドナー登録抹消者数(累計)	297,889人
HLA適合報告ドナー数(累計)	323,852人
実質登録患者実数(現在)	1,929人(国内1,307人)
HLA適合患者数(累計)	46,882人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	24,234例(2-3月実施175例)